Letter for Members No. 16 2005

Japan Prosthodontic Society

日本補綴歯科学会
Japan Prosthodontic Society
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpds/
発行人　大山　喬史　　編集　広報委員会
事務局　〒170-0003　東京都豊島区駒込1-43-9　（財）口腔保健協会
Tel 03-3947-8891　　Fax 03-3947-8341

平成17年2月10日発行

社団法人日本補綴歯科学会設立総会開催

大山喬史会長，川和忠治法人化担当委員長，鈴木保典事務局長を中心に法人化に向けての作業の詰めが行われており，平成17年2月12日に「設立総会」が行われる．

法人化は右図の「公益法人設立手続きのフローチャート」に示す過程を経て，正式設立にいたる．その進捗状況をお知らせする．

事務局は東京都豊島区の（財）口腔保健協会建物の一部を使用することになった．

まず，①相談・申請に必要な法人化関連資料（説明資料，補足説明，定款）は9月中旬に文科省に提出した．次に，②学術研究助成課（以下担当課という）と相談者とで資料内容の詰めが行われ，さらに担当課と総務課で内容の詰めが行われ，昨年12月中旬に設立目的，申請資料等に問題がないとの回答が得られた．この回答を受け，法人化の年度内設立を目指す大山会長の意向により，次のステップとして，③**【設立総会・発起人会】**が平成17年2月12日に東京医科歯科大学歯学部「特別講堂」で開催される．この総会で承認を得た後に，④**【設立許可申請】**と進む手順である．なお設立総会の前に任意団体である**【現日本補綴歯科学会の解散】**をする必要があり，**【社団法人日本補綴歯科学会】**設立にかかわる理事会，評議員会，総会の開催日と同日に行われる．

公益法人設立手続きのフローチャート（文部科学省）

相談・申出等　①
↓ 総務課にて担当課を判断する．目的事業が明確な場合は，最初から担当課が相談を受ける．

設立事前相談　②
↓ 担当課と相談者とで内容を詰める．次に担当課と総務課とでさらに内容を詰める．特に問題がなければ設立総会・発起人会を行い，設立許可の申請を行う．

設立総会又は設立発起人会　③
↓

設立許可申請　④
↓

省内審査（民間法人連絡協議会）
↓ 民間法人連絡協議会において審議し，要検討課題がある場合には，改善指導もしくは継続審査となる．設立が認められた場合には，担当課が起案・決裁手続き等を行う．

設立許可
↓

設立登記

支部活動の充実へ向けて

平成16年10月16日（土），横須賀芸術劇場楽屋3において平成16年度第1回日本補綴歯科学

会支部長会が行われ，学術大会年１回化ワーキンググループから提案された検討事項について協議が行われた．

野首副会長

出席者は大山喬史会長，赤川安正・野首孝祠副会長，平井敏博・河野正司・冲本公繪・松村英雄（早川　巖代理）・矢谷博文（以上理事），木村幸平・野村修一・松本敏彦・森戸光彦・五十嵐順正・江藤隆徳・真鍋　顕（中尾勝彦代理）・佐藤博信（以上支部長），馬場一美・越野　寿・鈴木哲也・津賀一弘（以上幹事）で，司会進行は野首副会長が務められた．

支部学術大会の充実化についての協議に際し，大山会長が今後本部と支部の役割分担が明確になることが予測されるとし，支部活動指針として以下の事項を述べられた．

①行政や歯科医師会の事業に支部が積極的に参加してほしい旨，②その経費は本部予算を含めて検討したい旨，③支部学会は地域住人や歯科医師会員に目を向けた活動を充実させていただきたい旨，④現在ある支部助成金等を有効活用して地域に貢献できる活動を行っていただきたい旨．また，⑤現状では次期支部活動費は1.4倍の増額予定であるが，活動に応じて，さらなる増加の対応を検討することも考えられるとされた．

●主な検討事項

1．　支部学術大会の開催時期について，以下の提案と検討がなされ確認された．

1)　年１回学術大会の開催時期（案）について

①　年１回の学術大会は５から７月初旬までの間に開催する．

②　総会は，学術大会時と12月頃の年２回開催する．

③　12月の総会で次年度の役員を公表する．

2)　支部学術大会の合同学術大会開催について

①　支部学術大会や生涯学習公開セミナーの開催時期は，８月から翌年３月までの間で数カ月の幅をもって各支部が決める．

②　支部間での合同学術大会も可能とする．

2．　支部学術大会の充実化についての説明がなされた．

1)　支部学術大会のあり方

①　法人化のもと本部との連携はより密接になるが，支部の独自性は確保する．

②　支部の実情や地区歯科医師会の要望などを十分に配慮する．

③　近隣の支部の合同活動などをすすめる．

④　支部における公益性を活用する．

⑤　２日間開催への移行が不可欠となる．

2)　生涯学習公開セミナー・市民公開フォーラム・認定研修・認定医申請プレゼンテーションなどの積極的な開催へ

3)　支部助成金の増額などの経済的問題について

①　支部の会計について，支部への助成は「渡しきり」とする．

②　現在の支部の会計を本部会計に組み入れない．

③　資料代として実費徴収する方法も考えられる（支部当日会費）．

④　支部会は地域との密着を考慮し，無料化への検討を行う．

4)　会員の増加

最後に野首副会長から，本部の学術大会の年１回に伴って発信できる情報量は半減するので，支部活動の充実を推進して，社会に対する説明責任を果たしたいとの発言がなされた．

科学研究費補助金（基盤研究等）の審査委員選考方法の変更

研究活動を左右する科学研究費は研究者にとっ

て重要な問題であるが，これまでは日本学術会議が独立法人日本学術振興会に対して，科学研究費補助金（基盤研究等）の審査委員候補者の推薦・研究者情報の提供を行ってきた．

しかしながら，総合科学技術会議による競争的研究資金制度改革の意見に基づき，平成 18 年度以降の審査委員の選考方法については，日本学術会議からの推薦制度を取りやめ，日本学術振興会がみずから研究者データーベースを構築し，同会内に設置した学術システム研究センターを中心として，審査委員候補者の選定を行うことに変更がなされた．

この変更の背景には，科学研究費補助金を含む競争的研究資金については，予算が拡充される一方で，総合科学技術会議からの「競争的研究資金制度改革についての意見」をもとに，さまざまな改善が求められていることがある．そのなかで，審査委員の選定については，**公正で透明性の高い評価システムの確立**の観点から，「評価者プールの形成や評価者の選任は，学会などを含む機関からの推薦に基づくのではなく，配分機関みずからが制度の政策目的や，特色，研究開発の内容に応じて評価者を選任する」というコンセプトに立脚している．

そのためのデーターベースの充実の一環として，各学協会からの研究者情報の提供を，日本学術振興会のホームページを通じて直接受け取ることになった．

しかし，審査委員の選考にあたり，まず評価者データーベースの充実が必要不可欠であることから，**平成 17 年度分に限って**，日本学術会議に対して審査委員としてふさわしい研究者についての情報提供が求められた．

この依頼を受け，平成 17 年度は本学会として各委員会の委員長をその候補として情報提供することになった．

委員会活動報告 〜この 2 年間を振り返って〜

平成 15 年 6 月 10 日発刊の Letter for Members 11 号に各委員会の「活動計画」をお知らせしたが，今期最後のニュースレター16 号に「この 2 年間を振り返って」ということで「活動報告」を委員長に行っていただいた．

学術委員会

委員長：河野正司　　副委員長：井上　宏
委　員：五十嵐順正，石島　勉，魚島勝美，佐々木啓一，福島俊士，宮地建夫，渡邉文彦
幹　事：小林　博

この委員会は，学術大会開催を年 1 回とする件，咀嚼機能検査法，発語機能検査法の確立，補綴臨床における EBM を整理すること，審美を追求すること，国際交流の推進などを課題として出発した．学術大会において，1）チェアサイドにおける咀嚼・嚥下機能評価の開発　2）チェアサイドにおける発語機能評価の開発に重点を置き，課題口演のテーマとしてこの方面の研究を推進した．また，それぞれの大会開催地の特色を出すものを講演として出していただくことを配慮しつつ，第 110 回大会では「EBM」2 回目，「短縮歯

☞ニュース

Journal of Oral Rehabilitation（JOR）から JOR Summer School 2005 のお知らせ
日時：2005 年 9 月 3〜7 日
場所：Bevagna in Umbria，Italy
トピック：Oral implants—implications for oral function
ホームページ：http://www.jor-net.com/

列（SDA）」，「クリニカルパスと症型分類」に焦点を置き，第 111 回大会においては，大山会長のご協力を得て大韓補綴学会との交流をはかり，審美領域で山崎久美子，宮永美知代両先生のご講演をいただいた．「補綴学と 8020」にも焦点を置いた．第 112 回大会においてはテリー田中先生を UCLA から招待し講演をいただき，また「睡眠と健康」「再生医療と歯科補綴学の接点」について討議し，第 113 回大会では，チェアサイドでできる咀嚼機能検査法，再生医療第 2 回を企画し，なんとか皆様のご期待に沿ったつもりである．

編集委員会

委員長：石橋寛二　　副委員長：藤田忠寛
委　員：小正　裕，塩沢育己，田中昌博，
　　谷口　尚，玉本光弘，中村隆志，
　　宮崎　隆，山森徹雄，依田正信
幹　事：武部　純

1．補綴誌の MEDLINE 登録を目的に書類作成後，National Library of Medicine に申請し，平成 16 年 11 月 12 日づけで MEDLINE 収載審査にて高い評価を得た．今後，収載に向けて手続きを進めていくこととなった．

2．PRP のオンラインジャーナル化を推進するため，独立行政法人科学技術振興機構（JST）が運営する J-STAGE での実施を開始した．

3．PRP，補綴誌ともに年間 4 回の発刊に向けて検討した結果，平成 18 年から実施することとなった．

4．総説，依頼論文，誌上ディベイト，認定医症例報告論文等を含めて，会員の要望に応えた誌面構成を企画し実行した．

5．学術雑誌としての投稿論文の質を保ちつつ量的確保が得られるよう掲載論文数の増加に努め，補綴誌の充実をはかることができた．

6．補綴誌，PRP の「投稿の手引き」の一部改正を行った．

7．補綴誌，PRP の査読結果報告書の一部改訂を行った．

会計委員会

委員長：櫻井　薫　　副委員長：川良美佐雄
委　員：津賀一弘
幹　事：上田貴之

最大の業務は，年会費の見直しを行ったことである．その背景として法人化に伴う人件費や事務所関連経費による歳出の増加，学術大会年 1 回化に伴う大会開催の収入と支出の変化に加え，各支部への助成金の増加，また和文誌と英文誌の両方の発行などに関連する歳入・歳出の変化がある．

そのほかには，平成 14 年度の会計監査時の指摘事項を踏まえて，学会活動の国際化に伴う国際交流経費の申し合わせ事項や，新たに設立された生涯学習関連経費の申し合わせ事項を作製した．さらに学術大会開催に関連した領収書と帳簿の記載・整理の仕方を大会主管校に徹底したため，事務局による科目および金額の整理が容易になり，委員会としても支出の内容が明確に把握できるようになった．

また主管校のご努力により，学術大会の開催費用が抑制されたことは，学会にとって喜ばしいことであった．最後に会費の値上げ承認もふくめて，会員各位のご協力に感謝を申し上げます．

国際渉外委員会

委員長：古谷野　潔　　副委員長：佐藤　亨
委　員：池邉一典，竹内久裕，萩原芳幸
幹　事：築山能大

今期の活動の大きなものは，Korean Academy of Prosthodontics（KAP）との第 1 回（於ソウル）および第 2 回（於東京）の Joint meeting の

開催，そしてGreater New York Academy of Prosthodontics（GNYAP）との第1回Joint meetingでした．いずれも初めてのことで，いろいろと苦労もありましたが，何とか無難に行えたことに安堵しています．これも役員および会員諸氏のご協力の賜と思います．この場を借りて深謝申し上げます．

また，長年の懸案であった本会とAsian Academy of Prosthodontics（AAP）との協力関係についても仕事を進めることができました．AAPに対して本会が学会として対応することとなり，2007年には，日本でAAPの学術大会を本会と併催で行うことも決まりました．

また，先方の希望もあって，第2回のGNYAPとのJoint meetingの企画を進めることになりました．双方にとって実りのある会であったのだろうと，あらためて安堵している次第です．

用語検討委員会

委員長：田中貴信　　副委員長：三浦宏之
委　員：清野和夫，豊田　實，長岡英一，
　　坂東永一
幹　事：金澤　毅

今期委員会の主要業務として取り組んでまいりました，歯科補綴学専門用語集の第2版は，委員各位のご尽力により，平成16年9月に発刊することができました．本書は歯科補綴学専門用語集資料（坂東永一委員長，平成9年），歯科補綴学専門用語集（井上　宏委員長，平成14年），ならびに会員から寄せられた追加希望用語などを全面的に検討したものであります．結果的に，主項目は944語となりました．併せて，海外留学中の若手会員のご協力を得ながら，初版の歯科補綴学専門用語集も含め，英語表記にも再検討を加えました．

新しい歯科補綴学専門用語集がそれぞれの分野で大いに活用されることを期待しております．

NC VERACIA
SHOFU
ナノ テクノロジーと
機能的形態が融合した 新人工歯　硬質レジン歯
NC Veracia
医療用具承認番号 21100BZZ00751
NC ベラシア アンテリア
硬質レジン歯（前歯用）1組…¥780　色　調：A1、A2、A3、A3.5、B2
形　態：上顎5形態、下顎3形態
医療用具承認番号 21200BZZ00272
NC ベラシア ポステリア
硬質レジン歯（臼歯用）1組…¥1,040　色　調：A2、A3、A3.5、B2
形　態：上下顎各2種
価格は2002年11月現在の標準医院価格(消費税抜き)です。
SHOFU 世界の歯科医療に貢献する 株式会社 松風
本社●〒605-0983京都市東山区福稲上高松町11・TEL(075)561-1112(代)

医療問題検討委員会

委員長：市川哲雄　　副委員長：佐藤博信
委　員：芝　燁彦，服部正巳，安田　登
幹　事：友竹偉則

本委員会は，診療報酬や種々の補綴診療関連の医療問題に関する事項を検討することを目的としています．平成16年度の診療報酬改訂に際して，会員の意見を聴取後，日本歯科医学会へ学会としての意見を答申しました．また，今期補綴歯科学会執行部の目標であった「チェアーサイドでできる咀嚼，発語機能検査法の確立と保険導入」を進めていくうえで，病態把握の分類を補綴治療のなかで確立していくことが不可欠であると考え，「症型分類」の策定作業を進めてきました．この策定作業については第111回学術大会におけるシンポジウム，およびホームページや雑誌などで報告して参りました．

最後になりましたが，症型分類に関して貴重なご意見いただき，またトライアルにご協力いただきました先生方，策定作業にご尽力いただきました委員およびワーキング委員の方々に厚くお礼を申し上げますとともに，完成にはまだまだ不十分ではありますので，さらなるご理解とご支援のほど，よろしくお願いします．

会則等検討委員会

委員長：細井紀雄　副委員長：古屋良一
委　員：熱田　充，岸　正孝，森田修巳
幹　事：小野寺進二/滝新典生

今期の主たる活動は，学会の法人化ならびに学術大会の年1回化に向けての会則の改正と整備でした．特に法人の定款（案）の作成については，従来の会則とは全く性格の異なるものであり，一

から勉強が必要でした．懇切なご指導をいただいた鈴木保典事務局長に，この場を借りてお礼申し上げます．各年度の活動は以下通りです．

・平成 15 年度

優秀論文賞候補論文の掲載雑誌を補綴誌に限らず，補綴関連雑誌に拡大する表彰制度に関する規定の改正案を作成しました．これは平成 15 年度臨時総会での承認を得て，同年度より実施されています．

・平成 16 年度

定款（案）を作成し，委員長会に諮り，会長に答申しました．委員会規程などの細則は各委員会に原案の作成を依頼し，集まった原案につき，本委員会にて現在検討中です．また学術大会の年 1 回化については，会則との整合性に問題ないことを確認しました．

広報委員会

委員長：冲本公繪　　副委員長：北川　昇
委　員：貞森紳丞，濵野　徹，松山美和
幹　事：諸井亮司

本委員会は会員と執行部の双方の意見交換が可能になるような，さらには対社会に情報提供メディアの役割を担うことを目指して活動を行いました．

広報活動として，ニュースレター“Letter for Members”を 10 回発刊致しました．学術大会時発行の特別号ではアンケートを実施し，加えて抄録綴じ込みアンケートに寄せられた会員の声に対し，執行部からニュースレターに回答をいただくというコミュニケーションは相互の意志疎通を計るうえで有効であったと考えます．さらにそれらの声が学会運営にも反映（補綴誌カラーページ，認定医書類のダウンロード，PC プレゼンテーションの導入など）されました．

ホームページは平成 15 年 4 月から平成 16 年 12 月までに 90 回の更新を行い，タイムラグの少ない情報を公開することに務めました．また平成 15 年 12 月からは『一般の方を対象とした Q & A』コーナを設け，その質問と回答をホームページ上で公開とし，対社会への窓を開きました．

法人化担当委員会

委員長：川和忠治　　副委員長：山内六男
委　員：齋藤文明
幹　事：割田研司

大山喬史会長の意向により，平成 15 年度から設置された当委員会では，平成 15 年度は，ニュースレター№11 に掲載された基本方針にそって，これまでの議論を整理するとともに，新たな情報収集を行い，委員長会とも連絡をとりながら，議論を重ねてきました．その結果，本学会としては「社団法人格の取得を目指す」ことを提案し，理事会，評議員会での議決を経て，10 月 24 日に開催された第 110 回日本補綴歯科学会総会（長野）において議決，承認され，社団法人格取得に向けた具体的な準備作業に入りました．

平成 16 年度は，委員長会，事務局長を中心に準備を進め，庶務担当をはじめ各委員会の協力により設立趣意書，定款，事業計画書などの必要書類を作成，10 月には文部科学省へ書類を提出し，現在は社団法人設立総会開催許可の指示を待っている状況であります．

実技教育検討委員会

委員長：皆木省吾　副委員長：河野文昭
委　員：會田雅啓，稲井哲司，塩山　司，
　　鱒見進一
幹　事：原　哲也

本委員会は，歯科補綴学に関連する実技教育の評価に関する検討を行うことを目的とした委員会であり，卒前の歯科補綴学教育の実習内容ならびにその評価方法などについて検討を行った．歯科医療の進歩に伴い，国民に求められる知識・技能は明らかに増加しており，歯学教育はこれに対応することが必要とされている．このような社会的要求への対応の一環としても，基本的技能の習得度に関する評価を教育の場において再考することは重要であり，本委員会での検討は大変に有益であったと考える．本年 10 月に開催された第 112 回学術大会において本委員会での検討結果を踏まえたシンポジウムを開催したが，その際のアンケートにおいて，適切な評価を実技教育の場に導

入することの重要性に多大な共感が得られたことは非常に印象的であった．最後に，常に積極的な姿勢で検討を進めて下さった委員諸氏および幹事に心から感謝します．

研修教育検討委員会

委員長：故川﨑貴生，石上友彦
副委員長：大川周治
委　員：木村幸平，斎藤正恭，田中卓男，野村修一
幹　事：大谷賢二

本委員会は卒直後の歯科医師研修医教育を念頭に置き，補綴領域での到達目標を確立するための検討を重ねてきました．各委員の大学でのアンケートによる研修医担当症例の分類から始まり機能検査，心理社会的困難度等の問題を医療問題検討委員会と擦り合わせをしながら，第 111 回学術大会の研究教育研修会において，診療レベル基準（案）を提示しました．その後，診療基準レベルを研修医の症例に対する形態的評価のみに限定し，「研修医担当症例の適応表（案）」を各大学の補綴学教室へ配信して意見を徴収し，本年度中に原案を完成させ，次年度の教育問題検討委員会に提出して継続審議を委託する予定です．平成 18 年度に法制化される研修医制度は各施設，地域による差が大きく困難な問題が重積していますが，国民の歯科医療に貢献するためにも本委員会の仕事は急務と考えます．川﨑委員長亡き後の不慣れな委員長でしたが，各委員，幹事のご協力に感謝いたします．

生涯学習検討委員会

委員長：早川　巖　副委員長：松村英雄
委　員：窪木拓男，佐藤裕二，嶋倉道郎
幹　事：鈴木哲也

昨年度新設された本委員会では，歯科医療を通じて地域社会の活性化と生涯学習の環境基盤作りをすすめるため，1）一般臨床家の歯科補綴学の知識や技術の向上を目的とした「生涯学習公開セミナー」と，2）一般市民への歯科健康科学に対する啓蒙を目的とした「市民公開講座」の 2 事業の企画，開催を行ってきました．学術大会の年 1 回化や「社団法人」取得に向けて，支部の活性化や補綴歯科学会の社会貢献が急務となっています．

手探りで始めた生涯学習公開セミナーでしたが，昨年度は 9 支部中 5 支部で，今年度は 8 支部で開催され，市民公開講座についても 2 支部で開催ならびに開催が予定されています．参加者も昨年より増加し，アンケート結果からも好評を得ています．これも関連する委員会や支部の皆様方の多大なご支援，ご協力のたまものと，心から感謝しております．

認定審議会

委員長：矢谷博文　副委員長：新谷明喜
委　員：清野和夫（東北・北海道），小出　馨（関越），大川周治（東関東），三浦宏之（東京），藤田忠寛（西関東），田中貴信（東海），野首孝祠（関西），皆木省吾（中国・四国），田中卓男（九州），平井敏博（庶務担当理事），河野正司（学術担当理事）
幹　事：石垣尚一

平成 15，16 年度には，認定医数の増加，質の向上のため，各年度に認定審議会を 2 回，認定審議会小委員会を 3 回開催した．

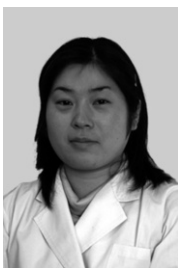
認定審議会では，2 年間に新規認定医 68 名，新規指導医 59 名，新規認定研修機関 7 機関の認定を行うとともに，認定医 261 名，認定研修機関 67 機関の更新を行った．また，第 109，110，111，112 回学術大会および各支部会にて計 58 名の認定医ケースプレゼンテーションを実施した．さらに，各学術大会にあわせて認定医研修会を開催した．

認定審議会小委員会では，認定医のしおりを改訂するとともに，広報委員会の全面的な協力によりしおりのダウンロード化を実施した．また，編集委員会の協力により認定医ケースプレゼンテーション事後抄録を 4 ページの症例報告論文として論文化をスタートした．認定研修機関（乙）の認定について具体的な指針を定め，認定医制度規則ならびに施行細則の改正を行った．さらに，認定医ケースプレゼンテーションの審査方法の再検討

を開始し，アンケート調査を実施するとともに新審査用紙による採点の試行を開始した．審査方法の改正については次回の審議会に引き継がれる予定である．

第 112 回学術大会受賞者の声

課題口演



1-2-3　咀嚼と咀嚼能力の相違が胃排出速度に及ぼす影響

○**水戸祐子**，服部佳功，渡辺　誠
（東北大院）

このたびは，第 112 回日本補綴歯科学会学術大会課題口演の賞をいただき，大変光栄に思います．大学院の研究テーマとしていただいた研究でしたが，残り 1 年の仕事の弾みにも励みにもなりました．ありがとうございました．

咀嚼による食物の細分には，嚥下への備えと消化吸収への備えの 2 つの面がありますが，そのどちらも直接には評価されていません．篩分法などは細分能力そのものを直接評価する方法で，摂取可能食品種のアンケートは嚥下できるまで食物を細分する能力を間接的に評価する方法です．摂取された食品が，その後，どのように消化，吸収されるかは，咀嚼の影響を受けないはずがありませんが，そこが評価されることはほとんどなかったのです．

消化吸収を調べる方法としては，採取した便の成分を定量する方法が一般的らしく，半世紀以上前には，口腔状態の違い（歯の状態，義歯の有無など）が排泄物の成分に及ぼす影響などが調べられていましたが，現在，その方法を採用するのには，ちょっと抵抗があります．その代わりに今回用いた胃排出速度の測定法は，胃から排出された食物が小腸から吸収され，代謝を受け，排出されるまでの時間を評価するのですから，吸収までの評価といえなくもありません．胃排出速度の評価法でも，放射性同位元素で標識した試験食の体内動態をシンチグラフで評価する直接法と違い，アセトアミノフェンや，最近開発され，私たちも利用した安定同位元素 ^{13}C を利用した脂質や酢酸を利用する方法は，吸収以降の速度を一定と仮定したうえで，それまでの速度を評価する方法だからです．

安定同位元素を使う方法は，生体への侵襲がなく，新生児から高齢者まで安全に行うことができるという大きな利点があります．何度，反復測定しても，安心して実験ができるのです．とはいっても，1 回の測定が 5 時間弱かかりますので，そう度々，被験者さんにお願いはできません．実験条件を探るため，オーベンの服部先生とふたりで，何度も何度も予備実験を繰り返すこととなりました．標識された脂質には，わずかながら特徴あるニオイがあります．それがだんだん鼻に着くようになり，ついにはスクランブルエッグまで，口にすることができなくなり，バターが焦げる香りも苦手になりました．本実験に参加された被験者の方々には気にならないニオイだったようですが…．

腸は第 2 の脳といういい方があるようですが，今回の研究で，消化器系の精妙な調節の一端が解ったような気がします．それは，反面，実験条件を一定に整えることが困難ということでもあります．本学会の会場で，多くの先生方から貴重なご意見をいただきました．難しい研究ですが，1 歩でも 2 歩も進めてみようと，気持ちを新たにしているところです．

デンツプライ賞

2-3-6　歯牙喪失ラットにおけるテタヌス刺激による海馬グルタミン酸変動

○**奥田恵司**, 山本さつき, 井上　宏
（大歯大）

この度，第 112 回日本補綴歯科学会学術大会で思いかけずデンツプライ賞を受賞させていただいたことは身に余る光栄であり，驚きと感謝の念でいっぱいです．今回受賞させていただいた発表内容は，歯の喪失が海馬に与える影響の一因を明ら

かにすることを目的としております．記憶や学習に関与する中枢神経系の主要な興奮性の神経伝達物質であるグルタミン酸をマイクロダイアリシス法にて測定したものです．マイクロダイアリシス法の特長は *in vivo* で機能中に脳内物質を測定することのできることです．

今回の研究により安静時海馬でのグルタミン酸量には差はなかったのですが，電気刺激により機能状態にした海馬では，早期に臼歯喪失したラットにおいてグルタミン酸量の分泌が有意に減少していたことがわかりました．実験の当初は失敗ばかりで尊い命を無駄にしているのではと思ったこともありましたが，多くの失敗を土台にして頑張った結果が受賞につながったのだと思っています．

この研究は臨床と直結したものではありませんが，咀嚼の大切さを実験を通して実感することができました．この結果をもとに，今後人工的に咀嚼機能を回復させた場合に海馬の機能も回復がみられるかどうかの研究をし，補綴学の臨床的意義を裏づけたいと考えています．

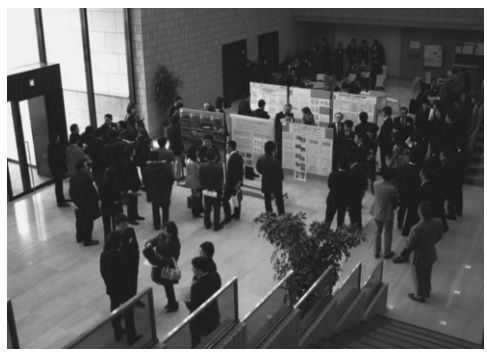
ポスター発表は口演発表に比べて低く位置づけられる先生もおられますが，今回の経験を通してのポスター発表では，本当に興味をもって下さる先生方と時間を気にすることなく face to face でディスカッションができ，自分の研究と関係のある人脈を築くことができたことは，何よりも私にとって貴重なこととなりました．このような機会を与えて下さり，終始ご指導たまわりました大阪歯科大学欠損歯列補綴咬合学講座の井上　宏教授と前田照太助教授に深く感謝するとともに，実験に関して多くの助言をたまわりました大阪歯科大学歯科麻酔学講座の佐久間泰司助教授に厚くお礼申し上げます．

＊タイトル左の数字は学会発表時の演題番号です．

支部会報告

東海支部

雪の到来を間近に控えた平成 16 年 11 月 28 日（日）の塩尻の地で，五十嵐順正大会長（松歯大歯科補綴学第 1 講座）のもとに，日本補綴歯科学会東海支部学術大会が開催された．前年度は演題すべてを口頭発表としたが，今回は時間の関係から臨床系を口頭発表，実験系をポスター発表とした．参加者はおよそ 190 人，口頭発表 8 題，ポスター発表 9 題となり，いずれの演題も活発な討論がなされた．



ポスター開場

認定医申請ケースプレゼンテーションは，アタッチメント義歯とインプラントによる補綴症例 1 ケース，歯周処置後の補綴症例 2 ケースの計 3 ケースで，厳正な審査が行われた．

学術大会終了後，次期大会長の田中貴信先生（愛院大歯学部歯科補綴学第 1 講座）より閉会の挨拶があり，次期大会長としての意気込みが感じられた．

生涯学習公開セミナー

続いて併催された生涯学習公開セミナーでは，「補綴と力―補綴臨床における“力”の問題点とその対策―」というテーマで，山下秀一郎先生（松歯大院）を座長に，加藤隆史先生（松歯大院），池田雅彦先生（札幌市開業），谷口威夫先生（長野市開業）が講師として講演され，ブラキシズムの問題点や顎関節症患者へのアプローチについてわかりやすく解説された．ディスカッションでは，座長を中心に討議がなされた後，会場からの質問をうけ活発な討議がなされ，時間を超過してしまうほどであった．終了後，五十嵐大会長よ

り感謝状が手渡され，閉会の挨拶があり，成功裡に会を終えた．

（酒匂充夫　松歯大）

関連学会報告

第20回日本歯科医学会総会報告

平成16年10月29〜31日の3日間，横浜市みなとみらいのパシフィコ横浜にて，「健康な心と身体は口腔から〜発ヨコハマ2004〜」をメインテーマに，第20回日本歯科医学会総会が開催された．4年に1度開催される歯科界最大のイベントだけに，学会の規模と2万人もの参加者数に圧倒された．計11の会場で，開会講演，10題の講演，17題のシンポジウム，3つの国際セッション講演，3つの国際セッションシンポジウム，75題のテーブルクリニック，351題のポスター発表，26題の歯科学生ポスター発表，81題の視聴覚セッションと公開フォーラムが開催された．昼には企業後援による7つのランチョンセミナーと，夕方には同じくサテライトシンポジウムも行われた．わが日本補綴歯科学会からも多くの会員が講演者やシンポジストとして招待され，またポスターセッションやテーブルクリニックでもたくさんの発表が行われた．

開会式

また，隣接した展示ホールでは日本デンタルショー2004も併催された．過去最大の20,000 m²の会場には225社もの出展があり，会場内は大勢の歯科関係者の熱気であふれていた．特に今回の展示ではMI（Minimal intervention）の文字が多く目につき，歯科医学に追従，進化していく出展品の凄さと多さに目を見張った．

初日，海上自衛隊横須賀音楽隊のオープニング演奏後，頼近美津子アナウンサーの司会でおごそかに開会式が始まった．江藤一洋会頭（東医歯大・歯学部長）の式辞，斎藤　毅先生（日本歯科医学会会長）の挨拶，井堂孝純先生（日本歯科医師会会長）の挨拶があり，4人の来賓から祝辞をいただいた．続く会頭講演では，江藤会頭が歯科医学教育の改革，歯科医学研究の展開と歯科医学の国際戦略の3つをメインにして講演された．歯学教育はCBT，OSCEを用いて国内標準化し，さらには国際標準化を視野に入れること，研究はCOEの最先端研究の3実例を挙げ，またスーパー・ステューデント育成の重要性について，国際戦略としては世界130万人のアジア系留学生（うち日本には5%，7万人）の存在からアジアに重点を置くことなどを述べられた．加えて，混合診療解禁など歯科界の今後の課題にも触れられた．

2日目午後，2002年ノーベル物理学賞受賞の小柴昌俊名誉教授が「やれば，できる．」と題して開会講演された．ご自身の歩んできた人生の多くの経験談から，「本気でやる」ことが大切であることを強調された．5,000人収容の会場は多くの聴衆で埋め尽され，演者から贈られたエールをおのおの胸に刻んだにちがいない．

講演される小柴昌俊名誉教授

最終日午後，「噛むことと全身の健康」と題して公開フォーラムが開催された．演者やパネリスト，コーディネータには芸能界などから著名人が揃い，会場は明るく華やかなムードであった．とくに高田万由子さんと益子直美さんは，実は臼歯部欠損をそのまま何年も放置していることをカミングアウトし，噛むことの大切さを認識したうえでこれからきちんと歯科治療を受けていきたいと抱負を述べるなど，一般の方にとっても和やかで親しみやすいフォーラムだったと思われる．

公開フォーラム

こうして，21 世紀の未来に向けて歯科界の夢と主張はヨコハマから発信された．

（広報　松山）

第 33 回日本顎口腔機能学会学術大会

平成 16 年 11 月 13 日（土），矢谷博文大会長（阪大院歯学研究科）のもと，大阪大学歯学部記念会館で学術大会が開催された．

一般口演は 9 題で，構成は咀嚼運動解析 4 題，咬合接触関連 2 題，口腔感覚関連 1 題，舌運動関係 1 題，マウスの顎運動と筋活動 1 題であった．この学会の特徴は，参加者は補綴科，矯正科，小児歯科，放射線科，口腔外科の多数の歯科分野にとどまらず，工学部などの他分野の研究者が集う学際的な学会である．加えて，発表 15 分，質疑応答 15 分の 30 分間のスタイルは，研究内容の十分なディスカッションができることを第 1 目標として，学会前身の研究会発足当時から踏襲していることである．

特別講演では「顎関節の個体別計算バイオメカニクスシミュレーション」と題し，田中正夫教授（阪大院基礎工学研究科）が，顎関節における力学状態と関節内軟組織の運動・変形を個体別にシミュレーションすることにより，個々の顎運動軌跡や変化が推測でき，これらは顎運動矯正などの臨床の指針探索に有効であることを講演された．

追：万博記念公園に隣接する大阪大学内の会場へは，モノレールの阪大病院駅下車から徒歩 13～14 分の距離があり，バス路線が走る広大な敷地を羨み，恨みながらすでに日が暮れた寒風のなか帰路を急いだ．

（広報　冲本）

第 14 回日本磁気歯科学会学術大会

平成 16 年 11 月 6 日（土），7 日（日）に，第 14 回日本磁気歯科学会学術大会が，石上友彦大会長（日大）のもと，御茶ノ水の日本大学理工学部駿河台校舎の CST ホールにおいて開催され，当日参加者は約 150 名であった．

学会会場

メインテーマには『さらなる磁気の世界』を掲げ，歯科医療に磁気をさらに応用するため，過去を見直し明日に繋げることを目指したものであった．プログラムは，特別講演 1 題，特別発表（メーカー発表）2 題，研究発表 14 題あり，活発な討議が行われた．特別講演では，酸化鉄磁気材料のトップメーカーである戸田工業株式会社の常務取締役の高橋精一氏が「酸化鉄が創造する磁性の世界」と題した，酸化鉄産業の歴史，開発秘話から現在の医学への応用まで幅広いご講演をされた．

来年は，鱒見進一教授（九歯大）を大会長として，北九州市にて 11 月中旬に開催が予定されている．

（大山哲生　日大）

日本学術会議咬合学研究連絡委員会
第 19 期第 1 回学会代表演者による
シンポジウム　「咬合・咀嚼が創る健康長寿」

秋晴れの暖かな平成 16 年 11 月 28 日（日），新宿区・飯田橋レインボービルにて上記シンポジウムが開催された．咬合学研究連絡委員会（以下，咬合学研連）は少子高齢化の日本において歯科臨床の主軸となる咬合学の重要性を「咬合・咀嚼が創る健康長寿」として提言，報告している．本シンポジウムはこの具体案の公開ディスカッション

の場として開催され，日本学術会議の咬合学研究連絡委員会（咬合学研連）に登録されている 17 学会のうち 16 学会が参加し，各学会が見解を提示した．また，日本全身咬合学会との併催であった．

挨拶される小林委員長

小林義典咬合学研連委員長の挨拶，山田好秋委員の座長説明に続き，日本全身咬合学会の石川達也会長が，これからの歯科医学は口腔の機能状態と全身の健康との関連性が課題であると述べられた．

まず，安孫子宜光 JADR 会長が Gene Chip を応用した粉末飼育マウスの研究結果から，咀嚼活動の低下は脳細胞の遺伝子発現に影響すると講演された．実験途中の固形食飼育マウスと粉末食飼育マウスの死亡率に差あり，それ自体も聴衆に衝撃を与えた．次に，日本小児歯科学会の朝田芳信常務理事は，乳歯咬合完成前は咀嚼の学習期間，完成後は咀嚼の熟達期間であるため小児の咬合育成における「0320 運動」は重要であること，成人期以降へ与える影響に関するデータは現在なく，今後の縦断研究の必要性などを述べられた．続いて，日本矯正歯科学会の久野昌隆先生は，咀嚼機能の客観的評価について，開咬や反対咬合者は，咀嚼困難である咬合状態を補う咀嚼パターンが存在することや，そのため「食べにくさ」を感じさせないなどのご自身らの研究成果を紹介し，客観的評価と患者の満足度との関連性について講じられた．そして，日本顎咬合学会の夏見良宏常務理事は学会が行った全国 183 歯科診療施設のアンケート調査結果から，顎関節症患者の有病率，年齢分布や治療方法について報告された．日本審美歯科学会の石橋寛二前会長は，「審美歯科とは，顎口腔領域における美を求めることによって，健康寿命の延長を目指した新しいライフスタイルの構築を支援するもの」と明瞭にまとめられた．日本顎顔面補綴学会の谷口　尚理事長は学会や学会誌の紹介の後，顎顔面補綴患者の障害や治療の特異性を踏まえ，咬合・咀嚼だけでなく発音や審美も交えた QOL の向上や維持が必須要件で，それが「健康長寿」に繋がっていくと述べられた．さらに，東京矯正歯科学会の本吉　満先生が追加発言された．

午後の部は相馬邦道幹事委員に座長を交代した．日本口腔インプラント学会の市川哲雄評議員は，インプラント治療の QOL や医療費などに関する論文を参照し，また即時埋入負荷症例をビデオにて供覧しながら，インプラント治療は質の高い「咬合・咀嚼」を創り，質の高い健康長寿を創ることを力説された．続いて，日本歯科理工学会の宮崎　隆副会長は，生体材料や生体医工学は安全性，組織適合性，組織再生，機能代行と医療経済性の観点から健康長寿に寄与できると言及された．そして，日本顎口腔機能学会の佐々木啓一常任理事は学会紹介をメインに，顎口腔機能学の普遍化や普及について報告された．日本顎頭蓋機能学会の矢谷博文副会長は学会紹介の後，インターネットで検索した「噛み合わせ」と「全身」に関する 30 のホームページと著書 17 冊の調査の結果，それら全てが文責の明記や文献的裏付けのない「誇大広告」であり，学会としての規制の必要性を問題提起された．また，咬合学のガイドラインの策定やそれに基づく臨床の必要性も述べられた．そして，日本全身咬合学会の渡辺　誠副会長は学会と学会誌の特徴を紹介した後，残存歯数とうつ，痴呆や脳灰白質容積には関連があるというデータを提示された．最後にわが日本補綴歯科学会から野首孝祠副会長が，QOL 評価と歯数，咀嚼能力と機能歯数の関連について，ご自身らの一連の調査・研究結果を明瞭にまとめ，「健康長寿」のための歯科補綴学の役割について言及された．さらに，ご自身が大会長を務める次回 113 回学術大

☞**ニュース**

日本歯科医学会委託研究課題への採用

平成 17 年度の研究課題として，日本補綴歯科学会からは下記の課題が採用された．

「歯質欠損，部分歯列欠損，無歯顎に対する症例分類の提案と教育・臨床現場での症例分析」　研究代表者：市川哲雄先生（徳大院）

会のメインテーマを，本シンポジウムと同じく「咬合・咀嚼が創る健康長寿」にすることを報告された．

学会代表演者の先生方

全ての講演後には約1時間の討議があり，フロアからは平沼謙二先生（愛院大名誉教授）や丸山剛郎先生（阪大名誉教授）などからもコメントをいただき大盛況であった．各講演は25分間と若干短めではあったが，各学会の代表演者からの見解提示という歯学界初の試みであるシンポジウムは，多くの聴衆に成功の感を与えて終演した．

（広報　松山）

認定機関一覧

日本補綴歯科学会認定研修機関（甲）

北海道医療大学歯学部歯科補綴学第1講座
北海道医療大学歯学部歯科補綴学第2講座
北海道医療大学医科歯科クリニック
北海道大学大学院歯学研究科口腔機能学講座有床義歯補綴学分野咀嚼機能回復学分野
北海道大学大学院歯学研究科口腔機能学講座冠橋義歯補綴学分野インプラント歯科学分野
北海道大学歯学部附属病院高次口腔医療センター
岩手医科大学歯学部歯科補綴学第1講座
岩手医科大学歯学部歯科補綴学第2講座
東北大学大学院歯学研究科唆合機能再建学分野
東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野
東北大学大学院歯学研究科加齢歯科学分野
新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻顎顔面再建学講座摂食機能再建学分野
新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻口腔健康科学講座加齢・高齢者歯科学分野
日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学第1講座
日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学第2講座
日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学第3講座
奥羽大学歯学部歯科補綴学第1講座
奥羽大学歯学部歯科補綴学第2講座
松本歯科大学歯科補綴学第1講座
松本歯科大学歯科補綴学第2講座
松本歯科大学総合診療科
明海大学歯学部歯科補綴学講座
日本大学松戸歯学部補綴学第1講座
日本大学松戸歯学部補綴学第2講座
日本大学松戸歯学部補綴学第3講座
東京歯科大学歯科補綴学第1講座
東京歯科大学歯科補綴学第2講座
東京歯科大学歯科補綴学第3講座
東京歯科大学スポーツ歯学研究室
日本歯科大学歯学部歯科補綴学第1講座
日本歯科大学歯学部歯科補綴学第2講座
日本歯科大学歯学部附属病院総合診療科
日本大学歯学部歯科補綴学教室総義歯補綴学講座
日本大学歯学部歯科補綴学教室局部床義歯学講座
日本大学歯学部歯科補綴学教室クラウンブリッジ学講座
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能回復学講座摂食機能構築学分野
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能保存学講座摂食機能保存学分野
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科摂食機能回後学講座摂食機能評価学分野
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面機能修復学講座顎顔面補綴学分野
昭和大学歯学部歯科補綴学教室
昭和大学歯学部高齢者歯科学教室
鶴見大学歯学部歯科補綴学第1講座
鶴見大学歯学部歯科補綴学第2講座
鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座
朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野
朝日大学歯学部総合歯科学講座
神奈川歯科大学歯科補綴学講座
愛知学院大学歯学部歯科補綴学第1講座
愛知学院大学歯学部歯科補綴学第2講座
愛知学院大学歯学部歯科補綴学第3講座
大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座歯科補綴学第1分野
大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座歯科補綴学第2分野

大阪大学歯学部附属病院口腔総合診療部
大阪歯科大学高齢者歯科学講座
大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座
大阪歯科大学欠損歯列補綴咬合学講座
大阪歯科大学附属病院口腔インプラント科
岡山大学大学院医歯学総合研究科顎口腔機能制御学分野
岡山大学大学院医歯学総合研究科咬合・口腔機能再建学分野
広島大学大学院医歯薬学総合研究科顎口腔頚部医科学講座先端歯科補綴学研究室
広島大学大学院医歯薬学総合研究科顎口腔頚部医科学講座歯科補綴学研究室
徳島大学歯学部歯科補綴学第 1 講座
徳島大学歯学部歯科補綴学第 2 講座
九州歯科大学歯科補綴学第 1 講座
九州歯科大学歯科補綴学第 2 講座
九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座咀嚼機能制御学分野
九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座咀嚼機能再建学分野
福岡歯科大学咬合修復学講座
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科摂食機能回復診断治療学分野
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科顎口腔機能管理学分野
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科顎顔面機能再建学講座咬合機能補綴学分野
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科顎顔面機能再建学講座口腔顎顔面補綴学分野
慶應義塾大学医学部歯科口腔外科学講座
東京大学医学部附属病院顎口腔外科・歯科矯正歯科
明倫短期大学附属歯科診療所

日本補綴歯科学会認定研修機関（乙）

松山赤十字病院歯科
敬天堂歯科医院
医療法人審美会　鶴見歯科医院
医療法人社団皓歯会　ぐみょう今井歯科医院
医療法人小室会　小室歯科
医療法人社団　山根歯科医院
医療法人貴和会
林歯科医院
上り口歯科医院
県立広島病院歯科
医療法人社団綴理会　大山歯科クリニック
医療法人社団仁岳会　西東京歯科医院
医療法人社団秀英会　こばやし歯科医院

次回学術大会案内

第 113 回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成 17 年 5 月 14 日（土），15 日（日）
会　場：グランキューブ大阪（大阪国際会議場）
大会長：野首孝祠（大阪大学大学院）
第 113 回学術大会ホームページ
http://www.dent.osaka-u.ac.jp/~prost2/113jpds/

今後の学術大会案内

第 114 回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成 17 年 10 月 1 日（土），2 日（日）
会　場：朱鷺メッセ
大会長：河野正司（新潟大学大学院）
第 114 回学術大会ホームページ
http://www.dent.niigata-u.ac.jp/prosth1/jps/

第 115 回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成 18 年 5～7 月
大会長：平井敏博（北海道医療大学）

支部会案内

東京支部

開催日：平成 17 年 2 月 26 日（土）9：00
会　場：日本歯科大学
大会長：新谷明喜（日本歯科大学）
※生涯学習公開セミナーが開催されます
開催日：平成 17 年 2 月 27 日（日）9：30～12：30
会　場：日本歯科大学歯学部 1 号館 8 階富士見ホール

問合せ先：
日本歯科大学歯学部歯科補綴学第 2 講座
（実行委員長　五味治徳）
〒 102-8159　東京都千代田区富士見 1-9-20
TEL・FAX：03-3261-5738
E-mail：cb-ndu@tky.ndu.ac.jp

西関東支部

開催日：平成 17 年 3 月 5 日（土）
会　場：鶴見大学会館メインホール
大会長：森戸光彦（鶴見大学歯学部）

問合せ先：
鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座
（担当：松本亀治）
〒 230-8501　神奈川県横浜市鶴見区鶴見 2-1-3
TEL：045-581-1001，FAX：045-573-9599
E-mail：matsumoto-k@tsurumi-u.ac.jp

東関東支部

開催日：平成 17 年 3 月 20 日（日）
会　場：水戸プラザホテル
大会長：會田雅啓（日本大学松戸歯学部）

問合せ先：
〒 271-8587　千葉県松戸市栄町西 2-870-1
日本大学松戸歯学部歯科補綴学第二講座
（担当：若見昌信）
TEL：047-360-9381，FAX：047-360-9382
E-mail：wakami@mascat.nihon-u.ac.jp

学会および広報委員会へのご意見
ご要望をお寄せください

日本補綴歯科学会広報委員会
委員長　冲本公繪　副委員長　北川　昇
委　員　貞森紳丞，濵野　徹，松山美和
幹　事　諸井亮司
TEL：092-642-6371，FAX：092-642-6374
E-mail：kohojps@dent.kyushu-u.ac.jp
〒 812-8582　福岡県福岡市東区馬出 3-1-1
九州大学大学院歯学研究院
口腔機能修復学講座 咀嚼機能制御学分野

編　集　後　記

今期広報委員会では会員へのタイムラグの少ない情報伝達をモットーとし，また会員と執行部の意志疎通を計るパイプ役を目指しました．そして，広報アンケートの声が学会運営にも反映（補綴誌カラーページ，認定医書類のダウンロード，PC プレゼンテーションの導入など）されました．活動を支えていただいた委員の先生方に感謝いたします．（K.O）

メールでの利便性は十分に認識していましたが，顔を衝き合わせて皆で考えると良いアイデアが浮かぶことを委員会の活動を通してあらためて知りました．このような場を与えていただき，心より感謝申し上げます．（N.K）

精力的な委員長の下，素晴らしい委員の先生方に囲まれてのエキサイティングな 2 年間を過ごさせていただきました．ダイナミックに動く学会を，身近で感じることができ，貴重な経験ができたと思います．ありがとうございました．（S.S）

右も左もわからない状態で委員をお引き受けしてしまいましたが，委員長はじめ委員の方々に助けていただきながら，楽しく務めさせていただきました．今となりましては，とても良い経験をさせていただいたと感謝しております．（T.H）

2 年間の広報委員会活動を通して，補綴歯科学会をさらに身近に感じるようになりました．学会報告や取材記事の執筆，ホームページ Q & A の回答作成などたいへんでしたが，楽しく仕事ができました．本当に貴重な経験をさせていただき，ありがとうございました．（M.M）

補綴歯科学会もいろいろと変革の時期にあたり，この変わり目に広報委員会に務めさせていただいてよい経験となりました．（R.M）

今期の広報委員会（左から松山，貞森，冲本，北川，諸井，濵野）

Letter for Members No. 16 2005

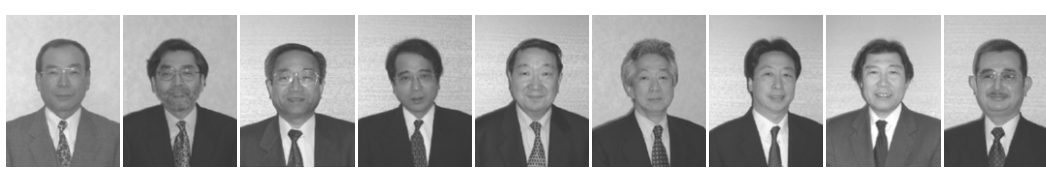
Japan Prosthodontic Society

日本補綴歯科学会
Japan Prosthodontic Society
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpds/
発行人　大山　喬史　　編集　広報委員会
事務局　〒170-0003　東京都豊島区駒込1-43-9　（財）口腔保健協会
Tel 03-3947-8891　　Fax 03-3947-8341

平成17年2月10日発行

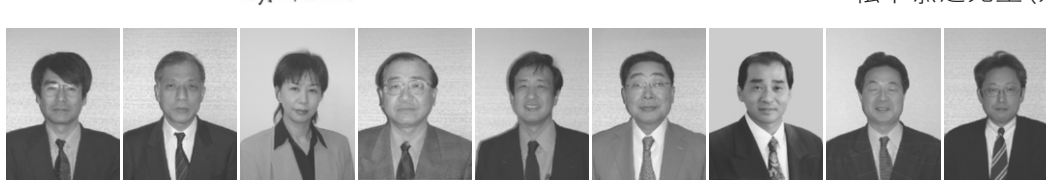
コンテンツ

社団法人日本補綴歯科学会
　設立総会開催 ……1
支部活動の充実へ向けて ……1,2
科学研究費補助金（基盤研究等）の
　審査委員選考方法の変更 ……2,3
委員会活動報告
～この2年間を振り返って～……3～8
第112回学術大会受賞者の声 ……8,9
支部会報告 ……9,10
関連学会報告 ……10～13
認定機関一覧 ……13,14
次回学術大会案内 ……14
今後の学術大会案内 ……14
支部会案内 ……14,15



大山会長　赤川副会長　野首副会長　庶務 平井理事　学術委員会 河野委員長　編集委員会 石橋委員長　会計委員会 櫻井委員長　国際渉外委員会 古谷野委員長　用語検討委員会 田中委員長

神奈川歴史博物館
（旧横浜正金銀行本店）
松下恭之先生（九大院）提供



医療問題検討委員会 市川委員長　会則等検討委員会 細井委員長　広報委員会 冲本委員長　法人化担当委員会 川和委員長　実務教育検討委員会 皆木委員長　研修教育検討委員会 故川﨑委員長　研修教育検討委員会 石上委員長　生涯学習検討委員会 早川委員長　認定審議会 矢谷委員長